

報告書 3 :

チヨケキラオで起きたこと (2017年、2023年に実施。ここで初発表)

目的 :

特定の一括りの経験 (ここではチヨケキラオというアンデスにある遺跡への旅行) において非常に不愉快な要素がある場合、そこへの負の感情が物語化のプロセスにおいて経験の記憶全体に悪い影響を及ぼすことが多々ある。負の感情の支配から逃れる方法として、その記憶の編集を、その出来事に全く関係のない (負の感情を共有していない) 特定の他人に任せるとするのは有効か否か検証すること。

手順 :

1. 友人 (今回はF氏) を家に招き、チヨケキラオでの経験を、できるだけ感情を除いて一晩中語り聞かせる。
2. 翌朝友人は、1 を自分の経験として一人称で日記にする。
3. 私はその日記を読まないまま封印。同時に、記憶についても完全に沈黙。
4. 2023年 (ひよんなことから) それを発見し開封。日記を読む。

結果 :

前述の不愉快さというのは、1週間一緒に旅行していた (同じガイドのグループで寝食を共にした) 遠い知人の恋人未満の男女 (友人の手記では2組と間違っている) が繰り広げたあいのりノリに、2人のラブストーリー序章に立ち会わされていることに、そして邪魔者扱い (彼らは善良だったので優しかったが) に萎えてしまった。というようなくだらないことです。

しかし当時はとても苛立っていました。

先日この日記を発見し、封を開けて遂に読んでみました。

友人Fが書いたその内容はなんだかよくわからなかったのですが、当時の良い感情がそこには保存されていました。私の語った覚えのないこと、村の女性に何度説明しても中国人と呼ばれていたことや、野営地でもらったゆで卵がおいしかったこと、旅行中ずっと共に行動した口バのこと (日記では馬と書かれているが)、母とのやりとりなどが思い出されました。負の感情に任せてこの経験を、気の合わない男女と旅行してウンザリした物語に仕立て上げ繰り返し語り自分を洗脳しなくてよかったです。

過去の嫌な記憶が、嬉しかった物語で更新されました。